

経済学・経営学メジャー企業研修の報告

2018年8月8日(水)、経済学・経営学メジャー所属の2年次生は、メジャー基礎ゼミナールⅠの授業の一環として、企業研修に出掛けました。当日は、台風が接近する悪天候でしたが、無事に日立建機、なめがたファーマーズヴィレッジに足を運ぶことができました。さて、経済学・経営学メジャー2年次生が参加するこの行事は、すでに5年目を迎えます。

日立建機土浦工場への訪問は今年で3年目となりました。現地での受け入れは毎年進化し、今回も見学は本学卒業生(主に工学部の出身が多いのですが)による誘導、説明が行われました。

世界規模での建設機械の需要拡大を反映して、今年は例年になく出荷前の機材がたくさん並ぶ様子を目の当たりにしました。近年は建設機械も自動化技術の導入や遠隔での管理レベルが高度化し、企業間競争が熾烈になっています。

工場見学に加え、最後の質疑の場面では、事前に学習した学生から、こうした現代的な成果や課題についての質問が相次ぎ、熱気ある議論が展開されました。

なめがたファーマーズヴィレッジへの訪問は、今年が初めてでした。関西に販売チャンネルが多いため、関東ではあまり知られていない、白ハト食品工業が、行方市やJAと協力して設立した組織こそ、「なめがたファーマーズヴィレッジ」です。

運営の多くは白ハト食品工業に任されており、そこには地域を元気にしたい同社の若手社員たちの熱気がみなぎっています。私たちは、そんなホットな現場に足を運び、若手社員の情熱や夢、そして、そうした力で変貌を遂げる行方の光景を、目の当たりにすることができました。

本学としては、同施設に注目することは珍しくありません。むしろ、現在のように成果がかたちになる前から、行方での挑戦を知る教員も少なく



ありませんでした。成功事例として紹介されがちな同施設ですが、それは並々ならぬ挑戦の繰り返しでもある訳です。

当日は悪天候で屋外施設の見学ができないこともあり、屋内でしっかりと質疑の時間が確保できました。すると、彼らの挑戦がどれくらい長期に渡り、その中で企業と現地の人々との心の距離が克服されながら進められたのかを、垣間見ることができました。

現在は、若者の挑戦を歓迎するムードが感じられる一方で、農業従事者の高齢化が深刻な局面を迎えているのも事実です。また、行方で推進されている事例の一般化は、どれくらい可能なのかという議論について、川上（農産物の生産側から捉えた視点）、川下（商品として市場流通させ、付加価値を顧客から支持してもらう側から捉えた視点）の双方をバランスよく展開する必要がありそうです。

まさに、経済学・経営学メジャーに所属する学生が考えるにふさわしい内容を、若い方々の挑戦で満ち溢れる雰囲気の中で、考える機会が生まれました。

学生にとっては、ゼミでの学習成果を問う場にもなりますし、何とんでも本学、そして、経済学・経営学メジャーの学生であるという帰属意識を感じる貴重な行事です。

当日は悪天候に悩まされましたが、学生の前向きな姿勢で素晴らしい行事となりました。これも、後援会の支援の賜物です。末筆ではございますが、皆様のご支援に心よりお礼申し上げます。



2018 年 8 月 21 日 今村一真